

## 商品説明、音で聴いて

### 視覚障害ある人支援のHP

岐阜市のNPO法人「ういすたりあぶつく」は、視覚障害のある人が音声読み上げソフトを使って聞けるように生活雑貨や食品のパッケージ情報をホームページ（HP）上で提供している。身近な商品の使い方や成分を知らないと事故につながる危険がある。「安心や、自分でで

きる喜びを感じてほしい」という思いから取り組みは始まった。

台所用除菌剤、冷凍食品、花粉対策のシエル、化粧道具、スティックタイプのレトルトカレー…。HPには常時約200点の商品名が並び、クリックすると成分や使用法、安全上の注意、販売元などの情報が表示される。

これらはスタッフがパッケージに印刷された文字を一つ一つ手作業で打ち込み、企業の了承を得て掲載した。視覚障害のある人たちに広く使われている音声読み上げソフトが入ったパソコンやスマートフォン（多機能携帯電話）でHPを閲覧すると、これらの情報を音声で聞ける。スタッフの石原育子さんによると、耳で聞いても理解しやしない表現に工夫したり、目が見えないと気付きにくい安全上の注意を付け加えたりしている。例えば、レンジで調理できる冷凍

## 東西南北



視覚障害のある人を支援するホームページを運営するNPO法人「ういすたりあぶつく」代表の藤本明成さん（左）

うどん。加熱後に蒸気でやけどをしないよう、袋に付いた吹き出し口の位置を説明した。

「いつも周りに頼れる人がいるとは限らないのに、一人で生活するための身近な情報は不足している。そんな現状を変えたかった。難病のため視力を失った藤本明成さん（53）は2007年にNPO法人を設立し、11年2月から情報提供を始めた。

企業のHPの中には、ソフトで読み上げる際に画像や広告などが妨げとなったり、知りたい

情報にたどりつけなかったりするものがある。

食品メーカー「フジッコ」（神戸市）の広報担当中井美智子さんは「多くの商品はパッケージにこだわっているが、目の不自由な人には伝わっていないと気が付いた。情報を得る手助けになる良いサイトだと思い、協力した」と話す。

「分からないのは仕方ないと思いつつながら日用品を使っている人も多い。ありそうでなかったサイト」。視覚障害のある人を支援する山梨県の団体代表の野沢みゆきさん（41）はHPをブログで紹介した。

日本語の読み書きが難しい外国人からのアクセスもあるという。藤本さんは「企業の理解を得られないこともあり、苦戦している」と活動への理解を呼び掛けている。

（共同通信福島支局

三浦 ともみ）